資料３

公立大学法人島根県立大学の平成23年度に係る業務実績に関する評価のポイント

## １．５段階評価を行う項目

### （１）特に顕著な成果が見られた事項…「評点５」の項目

| 項　　目 | 概　　要 |
|---|---|
| ①平成24年4月の看護学部設置に向けた準備（No.1-1） | 看護学部設置認可申請及び看護師・保健師学校指定申請を行い、それぞれ認可・指定を受けた。また、計画どおり年度内に校舎の増築・改修工事を完了した。 |
| ②役員会または理事会設置についての具体的検討（No.129-2） | 理事会設置に係る定款変更について申請を行い、県において理事会設置に必要な定款の変更を完了し、平成24年度から理事会を設置した。 |
| ③キャリアセンターによる新たなキャリア教育の構築、アドバイザーの配置、卒後フォローアップの実施等（No.132） | 学習意欲及びコミュニケーション能力の向上並びにグローバル感覚養成のためのカリキュラム・事業等を実施するとともに、キャリアアドバイザーを配置するなどして高い就職率を維持した。 |
| ④地域連携推進センターによる総合相談窓口の設置、産学公連携強化、生涯学習の推進等（No.134） | 各キャンパスは、地域からの相談窓口を設置するとともに、地域連携推進センター本部は、各機関と連携してキャンパス間連携を促進させた。また、3キャンパスから延べ164人（浜田110人、松江27人、出雲27人）が、東日本大震災の災害ボランティア活動に参加した。 |
| ⑤文部科学省に採択されたGPの全学的支援の実施、成果の公表（No.156-2） | 3件のGPを全学的支援のもと継続し、成果を広く公表した。特に松江キャンパスの「おはなしレストラン、はじまるよ！」事業について、文部科学省から高い評価を得た。 |
| ⑥ホームページ等を通じた大学情報の積極的発信、地域への情報発信強化（No.174） | 新しいCMSを導入して最新情報を的確に発信するとともに、トップページに閲覧者別の入り口を設けるなどしてホームページを改善し、目標を上回るアクセス数を得た。 |
| ⑦看護学部等設置準備委員会による、看護学部設置に必要な校舎等の増築・改修工事の実施（No.178-1） | 平成23年4月から施工を開始し、平成24年3月に完了した。その後、各種検査を終了し、予定どおり校舎の引き渡しを受けた。 |

## （２）平成２２年度の「今後の取組みが期待される事項」の取組状況
評点３以下（意図した実績が達成されなかった事項）

| 項　　目 | 取　組　状　況 |
|---|---|
| 総合学生情報システムを有効に活用し、学生の健康状態をとりまとめる体制はできているが、関連する内容の総合的な検討ができていないため、検討を行い、学生の健康管理に努められたい。（No.136） | 健康診断、健康調査及びGHQ（精神健康調査）の各結果を検討するとともに、個別データを学生に速やかにフィードバックして、個別指導に活かした。併せて、総合学生情報システムを活用して、各キャンパス単位の集計結果を比較し、学生の健康課題を明確にすることとした。<br>（H23評点：法人4、事務局4） |
| 「エコキャンパス実行計画」を改訂するとともに、年度途中の実績を速報し、取組の徹底を図ったことは評価できるが、使用量が増加しているため、消費エネルギーの削減に努められたい。（No.165） | ○コピー：両面・縮小・集約コピー、ミスコピーの裏面使用を徹底し、会議資料等の減量に努めた。<br>○電気：人感照明やLED電球への交換を進めるとともに、空調の温度管理の徹底を図った。<br>○ガス：設備の運転時間の調整や冷温水の温度設定の調整を行い消費エネルギーの削減に努めた。<br>○上水道：雨水利用設備（トイレ排水）を効率的に使用するため、雨水導入口のフィルターの清掃を定期的に行い、少しでも多く雨水を地下タンクに流入させるように努めた。<br>（H23評点：法人3、事務局3） |
| 情報セキュリティポリシーに定められた情報の格付けの策定及び運用が暫定的なものに止まっているため、早期に本格運用を始められたい。（No.181-1） | 情報格付けの基本ルールを策定し、運用手段として情報セキュリティポリシー及び情報格付けに基づき電子情報を管理・保管する、全学で利用可能な文書管理システムを導入した。<br>（H23評点：法人4、事務局3） |

## （３）平成２３年度実績に係る今後の取組が期待される事項
評点３以下の項目

| 項　　目 | 概　　要 |
|---|---|
| ①新たな寄附金制度の積極的広報及び募集（No.160） | 東日本大震災に係るボランティア派遣のための寄附金募集もあり、新たな寄附金制度運用の詳細設計（収納方法等）の検討は行ったが、寄附金募集までには至らなかった。 |

| | |
|---|---|
| ②「エコキャンパス実行計画」に基づくエコキャンパス活動の推進及び改善（No.165） | 年度途中の実績を速報するなど取り組みの徹底を図ったが、コピー、電気及びガスの使用量縮減が目標数値に届かなかった。 |

## （４）法人自己評価を変更した項目とその理由

| 項　　目 | 概　　要 |
|---|---|
| ①アドミッションセンターによる学生の募集等（No.131）<br>（評点：法人5→事務局4） | 平成24年度入学生一般選抜試験（出雲キャンパス専攻科）の英語問題で出題ミスがあり、出雲キャンパスでは平成22年度入試に続くミスとなった。 |
| ②出雲キャンパスにおける教職員の健康対策に関する取組（No.179-3）<br>（評点：法人5→事務局4） | ワークライフバランス向上戦略として、ウォーキングプログラムを2度実施し、健康を意識するきっかけとなったとの感想があったが、健康指標の改善につながるなど、計画を上回る成果を上げたとまでは認められない。 |
| ③情報セキュリティポリシーに定められた情報の格付けに基づいた運用の実施（No.181-1）<br>（評点：法人4→事務局3） | 情報格付けの基本ルールを策定し、運用手段として文書管理システムを導入したが、個別文書毎の格付けが実施されておらず、本格運用には至らなかった。 |

## （５）中期目標各項目別の平均値

＜中期目標各項目別の状況＞…年度計画各項目を５段階で評定し、その平均値で評価

| 中期目標の大項目 | 評点平均値 | | | | 評　定 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 大学 | | 事務局 | | |
| ①新たな大学構想の確立と実現に向けた取組 | 4.50 | AA | 4.50 | AA | 中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。 |
| ②自主的、自律的な組織・運営体制の確立 | 4.07 | A | 4.05 | A | 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。 |
| ③評価制度の構築及び情報公開の推進 | 4.00 | A | 4.00 | A | 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。 |
| ④その他業務運営に関する重要項目 | 4.14 | A | 4.05 | A | 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる。 |

## ２．５段階評価を行わず特筆すべき点又は遅れている点を示す項目

### 大学の教育研究等の質の向上に対する評価の概要

大学の３つの基本的な目標（①学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学、②地域に根ざし、地域に貢献する大学、③北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学）について評価を実施

■特筆すべき点（注目される点）

| 項　目 | 計画の進捗状況及び成果 |
|---|---|
| **学ぶ意欲を大切にし、高めていく大学** | ◆看護学部設置認可申請及び看護師・保健師学校指定認可申請に当たって、看護学部アドミッションポリシー、同カリキュラムポリシー及び同ディプロマポリシーを明記し、それぞれ認可を受けた。(No.3、13-1、61)<br><br>◆浜田キャンパスにおいて、基盤科目・プログラム専門科目の設置及び卒業要件の見直し等により、学生が自らの進路等に照らして体系的に履修できるようカリキュラムを再編し、平成24年度から実施することとした。また、平成23年度から「フレッシュマン・フィールド・セミナー」を開講し、全学生が初年次に学外での地域学習を行う取り組みを始めた。(No.13-2)<br><br>◆浜田キャンパスにおいて、上級生が授業補助を通じて下級生のサポートを行う体制を構築するため、「島根県立大学スチューデント・アシスタント設置要綱」を制定し、平成23年度秋学期から「フレッシュマン・フィールド・セミナー」及び履修者100名以上の科目を対象に配置した（平成23年度秋学期実績　38人)。(No.72)<br><br>◆浜田キャンパスにおいて、海外研修奨学金制度を拡充し、異文化理解・語学研修に150名が参加した。また、海外企業研修に25名（インドコース15名、韓国コース10名)、内閣府主催の青年海外派遣事業に5名が参加した。(No.122)<br><br>◆松江キャンパスにおいて、3学科共通の教育課題である「人間力の育成」を目的に、共通カリキュラムとして「読み聞かせの実践」を実施し、幼保園のぎ、乃木小学校ほかで演習を行った。学内外での演習及び事後指導での「まとめ」により、成果を上げた。(No.31)<br><br>◆松江キャンパス健康栄養学科において、栄養士の免許を活かした就職率89.2%を達成（目標：60%以上)。(No.36～39)<br><br>◆松江キャンパス保育学科において、卒業時の保育士資格と幼稚園教諭2種免許の併有率100%（目標：90%以上)、保育士資格・幼稚園教諭2種免許とその他の資格併有率58.8%を達成（目標：50%以上)。(No.40～43)<br><br>◆出雲キャンパス専攻科において、保健師国家試験合格率100%（専攻科新卒平均94.5%を上回る)、助産師国家試験合格率100%を達成（専攻科新卒平均98.6%を上回る)。(No.50～51)<br><br>◆出雲キャンパスにおいて、ラーニング・コモンズとして、意見交換ができる場の確保を検討し、図書館内に討議室及び看護理論関係図書を備えた書架を設置するとともに、図書館入口前に読書やPC操作のできるカウンターを備えた。(No.67) |
| **地域に根ざし、地域に貢献する大学** | ◆平成23年度の受託共同研究事業件数は3キャンパス合計で22件（浜田13件、松江2件、出雲7件）となり、目標の6件を大きく上回った。(No.116)<br><br>◆浜田キャンパスにおいて、計23回の公開講座が開講され、延べ486名が参加した。また、公開講座の事前申し込みが不要となる「キャンパスサポーター制度」を導入した。(No.110) |

| | |
|---|---|
| | ◆北東アジア地域研究（NEAR）センターにおいて、市民研究員が研究グループを構成し、それにNEARセンター研究員が関与する新しい市民研究員研究グループ制度の運用を開始した。また、NEARセンターの地域貢献機能を発揮すべく、市民研究員の要請を受けて研究の側面支援を行い、市民研究員が科学研究費を獲得する成果を上げた。（No.99）<br><br>◆ニューヨークで開催された小泉八雲の精神性をテーマとした造形美術展（期間：9/30-10/14、入場者：1800名）に協力し、八雲の遺品や初版本等とともに松江市を紹介する写真パネルを展示した。また、小泉教授が実行委員会顧問として、展示監修・記念講演等を行った。（No.92-1）<br><br>◆松江キャンパスにおいて、初等中等教育側及び大学教育側の双方に教育的成果のある事業を継続して実施できるよう、各学科において、地域の教育機関との緊密な連携協力を図り、読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施した。そのほか、「幼保園のぎ運動会ボランティア」等の学生参加による地域貢献活動、教員参加による「連携校教育研究会」を実施した。（No.117-1）<br><br>◆出雲キャンパスにおいて、「出雲産業フェア2011」に出展し、受託共同研究の紹介・学生による実習報告・公開講座等の紹介・看護学部開設のPR等を行い、積極的に地域との交流を図った。（No.113-2）<br><br>◆出雲キャンパスにおいて、入学時オリエンテーションの際に、ボランティア保険及びボランティアマイレージ制度について周知した結果、マイレージ制度登録者は前年度比5倍以上の117名で、目標の100名を上回る成果を上げた。また、同制度を利用したボランティア活動報告件数は97件で、うち10件は東日本大震災被災地での活動だった。（No.113-6） |
| **北東アジアの知的共同体の拠点として世界と地域をつなぐ大学** | ◆大学院生を対象とした「競争的課題研究プログラム」を継続実施するとともに、課題研究の採択者にオブリゲーションを課す制度改革を行い、学習効果の向上を図った。具体的には、紀要『北東アジア研究』または他の学術誌に研究ノートレベルの投稿を行うことを課した。（No.58）<br><br>◆NEARセンターでは、林研究員が京都大学経済研究所共同プロジェクト（ロシア国立高等経済大学ほかとの共同研究）に申請し、採択された。また、東北大学東北アジア研究センター及び富山大学極東地域研究センターほかの科学研究費プロジェクトに井上研究員が参加して、モンゴルでの現地調査を実施し、所期の目標を上回る成果を上げた。（No.102）<br><br>◆一部の在外修了生との連絡体制を維持するだけでなく、修了生の勤務先のひとつであるコマツロシア製造を訪問し、工場見学ならびに社長及び労働者へのインタビューを実施するなど、在外修了生とのネットワークを調査・研究に活用し、所期の目標を上回る成果を上げた。（No.105） |

■昨年の指摘事項について

| 項　　目 | 取　組　状　況 |
|---|---|
| 松江キャンパス総合文化学科において、TOEIC 受験者の 2 年次平均スコアを 1 年次平均スコアより 30 点以上増加させる目標が達成されていないため、達成するよう学生の学習支援策について検討されたい。（No.44～47） | 今年度においては、受験者の得点の状況を詳細に分析し、学習支援・指導に当たってのポイントをまとめた。<br>また、幅広い英語力の学生が、基礎固めから発展的英語学習へと着実に英語力をつけていけるような指導をしていくため、1年生対象の「多読演習A」「多 |

| | |
|---|---|
| | 読演習B」を新規科目として設けるカリキュラム改正に取り組んだ。<br>　さらに、英語力向上を測る指標については、実力を正確に分析できるものを採用するよう改善した。これまでは最終回の試験だけを受験した学生の点数も平均点に組み入れてきたが、実質の学力向上を測る点数とはいえないので、その点を改め、1年2年の試験で対応するデータのみ取り出して平均値を比較したところ、英語力が着実に向上していることが判明した。今後は、この指標に基づき実力を測定し、さらに適確な学習支援を目指す。 |
| 　研修会等の FD（授業改善）活動への年 1 回以上の参加率が目標の 90%を達成されていないため、参加率の低かった浜田キャンパスにおいて、研修会等への参加を促されたい。（No.64） | 　できるだけ多くの教員が参加できるよう、研修会の開催日時を教授会後に設定するなど考慮するとともに、DVD視聴研修など実施方法についても工夫を行い、参加率の向上を図ることとした。 |
| 　授業料減免制度について、意欲ある学生が修学しやすい環境づくりという観点から新制度設計を実施したが、制度周知・運用の詰めができていなかったため、制度開始時期が遅れた。（No.88） | 　平成23年度において、新制度に係る運用方法を定めた。また、新制度の周知・PRを行い、平成24年度新入生から新制度を適用することとした。 |

■遅れている点（課題がある点）

| 項　　目 | 概　　要 |
|---|---|
| ◆東京･大阪のサテライトキャンパスのあり方について検討を行い､方針を固めるほか､東京･大阪で就職活動中の学生の支援体制のあり方を検討し､体制を整える。（No.85-3） | 東京・大阪で就職活動をする学生の支援体制ができ、また都内に安価なレンタルスペースを確保して利用価値が認められたが、サテライトキャンパスのあり方について具体的検討が行われず、方針が定まらなかった。 |
| ◆北東アジア領域研究の成果について、原稿集約及び出版経費の調達等、年度内の刊行に向け作業を進める。（No.90-2） | 原稿集約に至らなかったため、作業人員の削減に対応した新たな出版計画を策定し、次年度に実施することとした。 |
| ◆ロシア海洋国立大学との間で､NEARセンター研究員を中心とする共同研究を準備継続する。（No.119-4） | 共同研究のテーマについて方向性は定まったが、助成金の申請等、共同研究に向かっての具体的進展はなかった。 |